

1 基本理念

「すべての子どもが夢を描けるまちをめざして」

子ども一人ひとりが未来を創るかけがえのない存在として、それぞれの権利や多様性が尊重され、将来に夢を描きながら、様々なことにチャレンジし、自分らしく健やかに成長できるまちをめざす。

誰もが安心して子どもを生み育てられるよう、社会全体ですべての子どもと子育て家庭を支えとともに、すべての子どものウェルビーイングの実現をめざす。

2 基本的視点

視点1 すべての子どもの権利の尊重

子どもを権利の主体として認識し、その権利を保障し、多様な人格や個性を尊重しながら、一人ひとりの最善の利益を図る。

視点2 すべての子ども・子育て家庭の支援

すべての子ども・若者、子育て家庭を対象に、それぞれの状況やライフステージに応じて、切れ目なく、きめ細かに支援する。

NEW 視点3 一人ひとりの視点に立った支援

子ども・若者、保護者の視点に立ち、その意見を聴きながら、施策を構築・実施する。

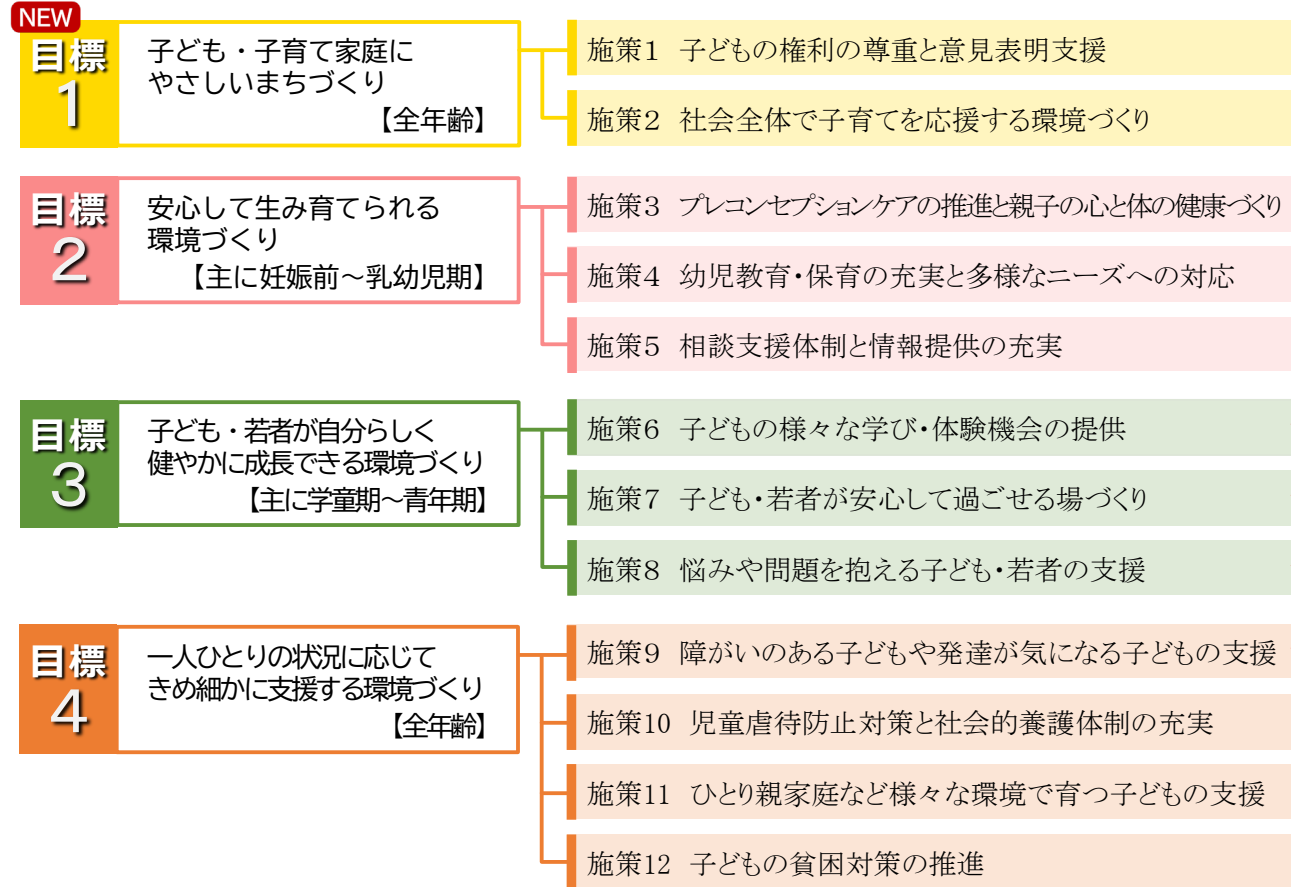
NEW 視点4 必要な人へ確実に届く支援

様々な状況にあるすべての子ども・若者、子育て家庭へ必要な支援を届けられるよう、プッシュ型・アウトリーチ型の支援を行う。

視点5 社会全体での支援

市民や事業者、地域、学校など、あらゆる主体と連携し、それぞれの役割を果たしながら、社会全体で子ども・若者、子育て家庭を支援する。

3 施策体系（★：専門委員会②に関連する施策）



4 施策別の現状と課題及び方向性（専門委員会②関連）

目標3 子ども・若者が自分らしく健やかに成長できる環境づくり 【主に学童期～青年期】

施策6 子どもの様々な学び・体験機会の提供	
(現状と課題)	
・文部科学省の調査では、将来の夢や目標を持っているに当てはまらないと回答する小中学生が増加している。一方で、子どもたちから、職業体験等の機会の充実を求める声がある。	
・子どもの地域活動やボランティア活動等への参加経験が減少している。市調査では、約半数の子どもが地域活動等へ参加したいと回答しているが、その割合は減少傾向にある。	
施策の方向性	・子どもたちの自己形成支援や職業観を育む機会、健やかな心身の育成など、様々な学びの充実を図る。 ・文化芸術やスポーツ、科学、社会貢献、国際交流など、様々な体験機会の充実を図る。 ①自己形成や社会的自立に向けた取組み ②様々な体験機会の充実 ③健やかな心身の育成

施策7 子ども・若者が安心して過ごせる場づくり	
(現状と課題)	
・共働き世帯の増加により、放課後児童クラブの需要が高まっている。また、日頃・緊急時ともに子どもを見てもらえる親族・知人がいない世帯が増加している。	
・市調査では、雨の日や猛暑日に利用できる屋内の遊び・活動の場を求める声が多い。	
施策の方向性	・子どもたちが安全に安心して過ごせる場づくりや、主体的に活動できる場の充実に取り組む。 ①放課後等における居場所の充実 ②中高生の居場所の充実 ③遊び・活動の場づくり ④非行防止・健全育成の取組み

施策8 悩みや問題を抱える子ども・若者の支援	
(現状と課題)	
・SNS等でのコミュニケーションが増加し、人間関係や悩み等が周囲から見えづらくなっている。	
・教育相談アンケートや面談の充実等により、いじめの認知件数が増加している。	
・コロナ下における生活環境の変化等により、不登校児童生徒数が増加している。	
施策の方向性	・様々な悩みを抱える子ども・若者が、早い段階でより気軽に相談できる環境づくりや、アウトリーチ型支援の充実に取り組む。 ・いじめの未然防止、積極的な認知と早期の組織的対応、関係機関との連携等に取り組む。 ・不登校児童生徒については、個々のニーズを把握するとともに多様な学びの場を確保するなど、個々の状況に応じた適切な支援に取り組む。 ①総合的な支援・連携体制の強化 ②いじめの防止・対応 ③不登校の児童生徒の支援 ④ひきこもり・無業の状態にある若者等の社会参加、自立・就労の支援

目標4 一人ひとりの状況に応じてきめ細かに支援する環境づくり 【全年齢】

施策9 障がいのある子どもや発達が気になる子どもの支援	
(現状と課題)	
・発達障がいへの社会的な理解の広がり等により、療育センター等における新規受診児数が増加し、診断待ちが発生している。また、福祉と教育の連携強化など切れ目のない支援が求められている。	
施策の方向性	・障がいの早期発見・早期支援や支援・療育体制の充実に取り組む。 ・発達障がい児支援の充実に取り組む。 ①早期発見と療育・支援体制の充実 ②特別支援教育の推進 ③放課後等における支援の充実 ④発達障がい児の支援 ⑤自立や社会参加に向けた相談・支援